

さらなる成長へインフラ投資 働きやすい職場環境整える

アルビス株式会社
代表取締役社長

大森 実 氏



2005年の社長就任以来、M & A や石川、福井への進出を進め、3期連続過去最高益を更新中です。

当社は1968年ボランティアチェーンの本部として設立され、加盟店への卸売を主な事業としてきました。しかし、加盟店が力を合わせて発展しようという時代は終わり、それぞれの企業が成長に意欲を持つようになりチェーンは解散しました。また、当社も小売業へ

舵を取り、私も社長として積極的な店舗拡大による事業基盤づくりに取り組んだ12年間でした。

—物流センターと新システム—

本社の隣接地で、新しい物流センターの建設に着手されました。

これまでは店舗整備に投資を集中してきましたが、ようやく将来へ向けてのインフラ投資と情報への投資を始めたところです。

既存の物流センターは、仕入れた品を店舗に配るための単なる倉庫でした。新しいセンターは店舗のバック業務を行う設備で、1階は惣菜、2階は精肉の加工フロアになります。

現在、精肉は各店舗のバックヤードで加工してパック詰めしており、全社で約350人が携わっています。これをセンターで集中して行い、店舗での作業を一部軽減することで、全体で100人程度に集約できると考えています。惣菜も一次処理したものやキット品を届け、店舗では揚げたり、焼いたり最終処理を行い、できたて商品の販売を行います。各店舗の負担軽減だけでなく、品揃えを豊富にすることも、多く売ることも可能になります。新物流センターは来年春の完成を予定しており、その後は海産や青果についての整備も考えていきます。

情報投資の内容を教えてください。

店舗業務の効率化を図る新システムが近く稼働します。今回、棚情報を活用して、作業の簡素化と新商品の入れ替えなどを簡単にできるようにし、よりお客様のニーズに沿った品揃えをしていきます。

こうした投資は仕事の質を高めると同時に、店舗や社員の負担軽減にも繋がります。

成長戦略の一方で、人手不足が深刻になっています。

県外の大学に進学した学生にUターン就職をPRするため昨年、名古屋市に中部事務所を開設しました。大学へ積極的に出向いて採用活動を行っています。2015年に東証一部に上場したことや、新しい事業展開にも興味を持ってもらい、採用実績に繋がっています。

—ライフスタイルに合う働き方—

国では「働き方改革」の推進が叫ばれています。どのような取り組みをされていますか。

今年の4月に人事制度を改定し、定年を65歳に延長します。また、育児や介護、長期加療が必要な社員には勤務時間の短縮や公休を配慮します。通常の育児休業に加えて、小学校に入学するまでは短時間勤務も選べるようにします。また、最近は親の介護のためにパート社員になったり離職したりする人が多いので、家庭の事情を考慮しながら再度元の勤務に戻れるようにするなど、働きやすい職場環境を制度面で整えました。

女性の活躍できる職場を評価する厚労省の「えるぼし」認定で、最高評価の星3つを県内で最初に獲得されました。

当社では男女の垣根はなく、男女関係なく活躍してもらいたいと考えています。以前は、レジは女性で、売場のチーフは男性がやると決まっていたのですが、今は海産や精肉の女性チーフもいて、活躍してもらっています。そういう取り組みが評価いただいたと思います。逆にレジをやりたいという男性もいて、イケメンがレジに立つと評判がいいですよ。

パート社員から正社員への積極的な登用や、女性の管理職比率の高さ（産業平均値4.8%に対して5.45%）も評価されています。

パート社員の待遇は以前は明確でなかったため、数年前から能力や仕事内容に応じた賃金制度に見直しました。今では現場責任者のチーフを務めるパート社員がいて、さらに正社員への登用も進めてきました。昨年は13人が正社員となりました。

管理職への登用は、業種によっては女性が辞退するという話も聞きますが、スーパーはベテランのパート社員が男性社員に「何しとんが」と指導するのが日常なので、違和感なく管理職になっています。最近は恋愛でも女性が男性をリードすることが多いですから。(笑)

個人のライフスタイルに合わせてられる職場づくり、男女問わずにやりがいを持てる仕組みづくりを進めてきました。

そうした「働き方改革」を進める上で問題はありますか。

不足した人材を派遣社員で補っているのですが、人件費が上がるのが大きな課題です。仕事自体を変えが必要があり、物流センターの整備や新情報システムの導入はそのためでもあります。

店舗網が拡大し、現場の状況はど

のように把握されていますか。

本社で用事がないときはいつも店舗を回っています。視察とか難しく考えず、社員たちと世間話をするのが楽しみなのです。そんな中で、若い従業員が話しかけてきて、現場の状況を教えてくれることもあります。店長は控えめであまり言いませんが(笑)。

中期経営計画では2018年度売上高1千億円を掲げられています。

そのための物流センターの整備であり、富山県内の出店強化と石川、福井でも出店のチャンスを伺っていきます。北陸3県では55店舗の数になりましたが、富山市より東には立山町と入善町にしかありません。県内にもっとアルビスファンを増やしたいですね。

また、人口の多い中京地区への進出の第一歩として、来年を目標に岐阜県への出店を考えています。

「成長、成長」と言うだけではだめで、見えるようにしないとダメです。言ったことが1年後に実現している。それが社員にも分かりやすいし、取引先への信頼にも繋がります。社員、取引先、生産者、消費者に分かりやすく示しながら、実現していきます。

会社概要

アルビス株式会社

設立：1968(昭和43)年12月
所在地：射水市流通センター
水戸田3-4

資本金：28億9,609万円
事業内容：食品小売
従業員数：2,666名(2017年3月末現在)
売上高：778億9,100万円(2017年3月期連結)

店舗数：富山県内33、石川県内19、福井県内4店舗

関連会社：(株)アルデジャパン、(株)アルビスファーム信州なかの

URL：http://www.albis.co.jp/



新商品の試食会